

## 【愛子小学校】

《本校の OJT キーワード》

ニーズに合わせた OJT 全員参加 OJT  
フレキシブル OJT



ニーズに合わせて，時間や形態をフレキシブルに

1 本校の OJT

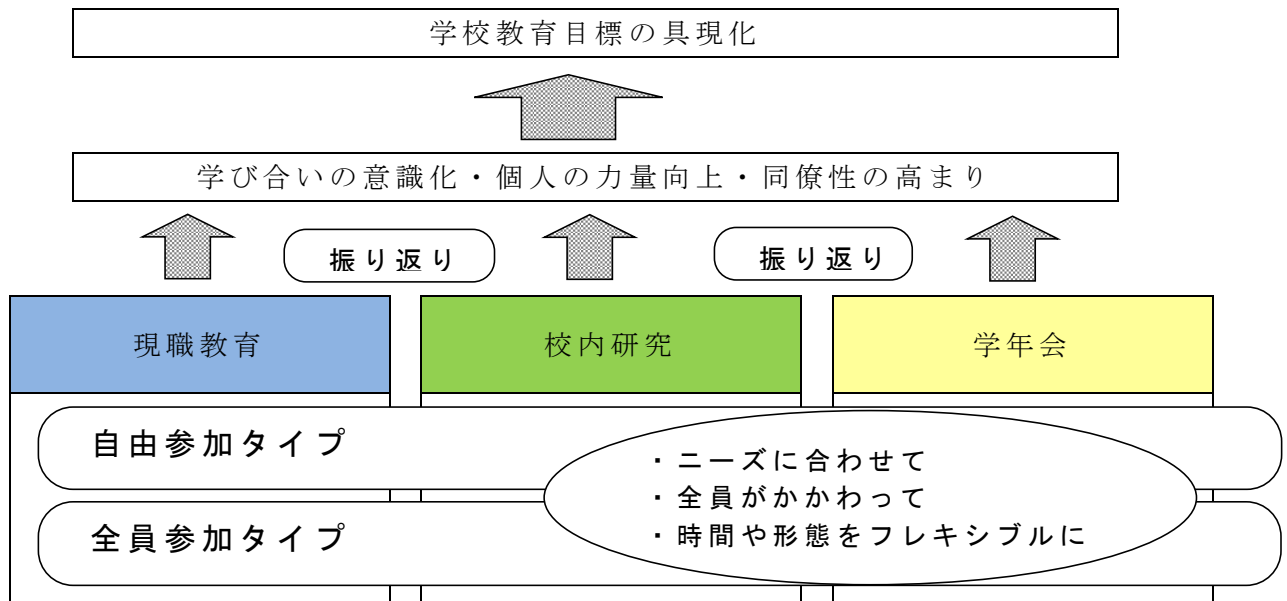
2 OJT 実践

3 OJT 実践の振り返り

4 OJT に取り組んで

# 1 本校のOJT

- OJTは「教育目標の具現化を図るもの」と位置付ける。  
また、それを支える教職員一人一人と教職員集団の力量向上を目指す。
- 大規模校の利点を生かし、多様な人材を活用していく。
  - ・年齢、経験年数にとらわれずに校内で講師を依頼でき、各学年会の人数も多く充実した話し合いが可能である。



## ファシリテーターの働きかけ

- ファシリテーターは主幹教諭、研究主任、学年主任で分担。
- 学び合える環境づくりときっかけづくりを行う。
  - ・職員のニーズを把握し、学校に何が必要かを判断し、OJTの場を設定していく。
  - ・だれがどのようなことに詳しいのかを知り、OJTの場が、学んだことを日常の指導に取り入れるきっかけの場になるように意識する。

## 学び合いの意識化

- OJTを意識した学年会の実施。
  - ・日常の指導に直結することが多い学年会では、学年主任をファシリテーターとし、教科指導や行事計画などの日々の課題へどう取り組んでいくかを明確にする。
  - ・定期的に学年会を設定し、学び合いの意識化、日常化へとつなげる。
- 振り返りを掲示し、学び合いの姿を可視化する。
  - ・学び合いの様子を共有することで、その場に立ち会わなくても、学び合いの姿を感じ取ることができる。

## 2 OJT 実践

### OJT キーワード

#### ニーズに合わせた OJT

- 年度当初に、全職員にアンケートを行い、**ニーズを把握**する。また、毎回振り返りを行い、その際にもニーズを把握する。  
また、毎回振り返りを行い、その際にもニーズの把握に努める。
- **その時期に求められていること**にこたえられるような内容を設定する。  
学校が教育目標具現化のために求めるために必要な内容については全員参加タイプとし、それ以外は自由参加タイプとする。
- ニーズが高まったときに実施することで、参加しようという意欲が湧き、負担感が少ない。

### OJT キーワード

#### 全員参加 OJT

- **全員参加タイプ**と**自由参加タイプ**を**両輪**として、OJTに取り組んでいく。
- **全員参加タイプ**は、現職教育を中心に特設の時間や職員会議後に実施し、みんなで学ぶスタイルを取る。また、校内研究では、全員授業（年1回）による計画的な研修を進める。児童の変容を把握しながら学校教育目標の具現化を目指す。
- 学校教育目標や児童の変容を目的にし、全員が同じ方向へ進むことで、同僚性を高めていく。

### OJT キーワード

#### フレキシブル OJT

- **自由参加タイプ**は時間や場所、内容をフレキシブルに設定する。
- 職員個々の力量向上に寄与できるような内容のものを年間の計画だけでなく、**ニーズが高まったときにも**取り上げていく。
- 職員が参加しやすいように**短時間**で実施する。5分、10分程度のものであれば参加しやすい。
- 職員会議や、打合せ、学年会、諸々の会議で集まったときにOJTを実施する。職員数が多く、一堂に会するのは難しいので、**集まったついでに**場を設定する。
- レジューメなどの作成や場所設定は取り立てて行わずに、**立ち話**のスタイルで行う。



打合せ後に ICT 機器の使い方を

### 3 OJT 実践の振り返り

#### OJT 実践内容

##### 「職員会議 OJT」 (H26.7月～2月実施)

- ・ 懇談会に向けて
- ・ 支援が必要な児童への対応の仕方
- ・ 書写実技指導
- ・ スチューデントシティ概要

##### 「校内研 OJT」 (H26.7月～2月実施)

- ・ シンキングツールによる指導
- ・ 研究授業 (全員授業)
- ・ 外部講師を迎えての授業研究会 など

##### 「学年会 OJT」 (H26.7月～2月実施)

- ・ 書写授業研修
- ・ ドリームマップ研修
- ・ 図工描画研修
- ・ 行事に向けた取り組み方 など

##### 「自由参加 OJT」 (H26.7月～2月実施)

- ・ 懇談会の開き方
- ・ クラブ活動の進め方
- ・ ノート指導
- ・ クラブ発表へ向けて
- ・ 電子黒板の使い方
- ・ 面談のコツ
- ・ ICT 機器使い方

##### 「夏の OJT 研修会」 (H26.8月実施)

- ・ 水泳指導
- ・ 合唱指導
- ・ 板書指導
- ・ ハードル指導



みんなで歌ってみましょう



付箋カードによる振り返り

#### 振り返り方法と留意点

##### 振り返りカード (付箋紙)

- ・ OJT 実施の際に、振り返り用の付箋紙を配付し、「自分にとってプラスになったこと」と「今後どのように生かしていきたいか」を分けて記入し、貼り付ける。
- ・ 校内研究では、事後の話し合いで付箋紙を用い、目標とする手立てについて成果と課題を貼り付けて行き、改善点の話し合いにつなげる。
- ・ 実施後校内に掲示し、共有できるようにした。
- ・ OJT で学んだことを書き出すことで、OJT が個々の力量向上に効果があったのかを意識できる。  
職員個々の意識を全体で共有していくのが難しい中で、一人一人にとっての成果を書き出し、掲示していくことで、学び合いの姿を感じ取れ、学校全体として、学び合っている意識へとつながっていく。



校内研究の振り返り

## 4 OJTに取り組んで

### 成 果

- OJTに取り組むことで、教職員個々の力量向上が図られ、それが指導へと反映され、児童の変容へとつながっていった。  
指導の改善や児童の変容を感じ取れると、OJTを意図的に設定しなくても日常的に学び合いが行われるようになり、それを繰り返すことで学校教育目標へ迫っていくことができる。
- OJTをきっかけに、校内での学び合う意識や、個々が持っている能力を広めていこうとする姿が見られた。  
特にOJTを設定しなくても日常的に学び合おうとする意識を感じ取れるようになった。

#### 《先生方の声》

新しい知識を学ぶ場として有効であると同時にすぐ使える方法を考えることができる。

#### 《先生方の声》

短時間でも気軽に行えることが大切。学び合う姿勢を大切にしていきたい。

### 今後に向けて

- 学び合いに対する職員の意識は高いが、OJT実施のための時間確保に対しては多忙感との折り合いをつけるのが難しい。  
OJTによって得た知識が後の作業時間を短縮したり、児童の変容につながったりするものだということを更に意識して伝えていくことで、OJTに割く時間が多忙感を増長させないものになるように考えていく。



外部の講師を招いて



面談技術に興味津々